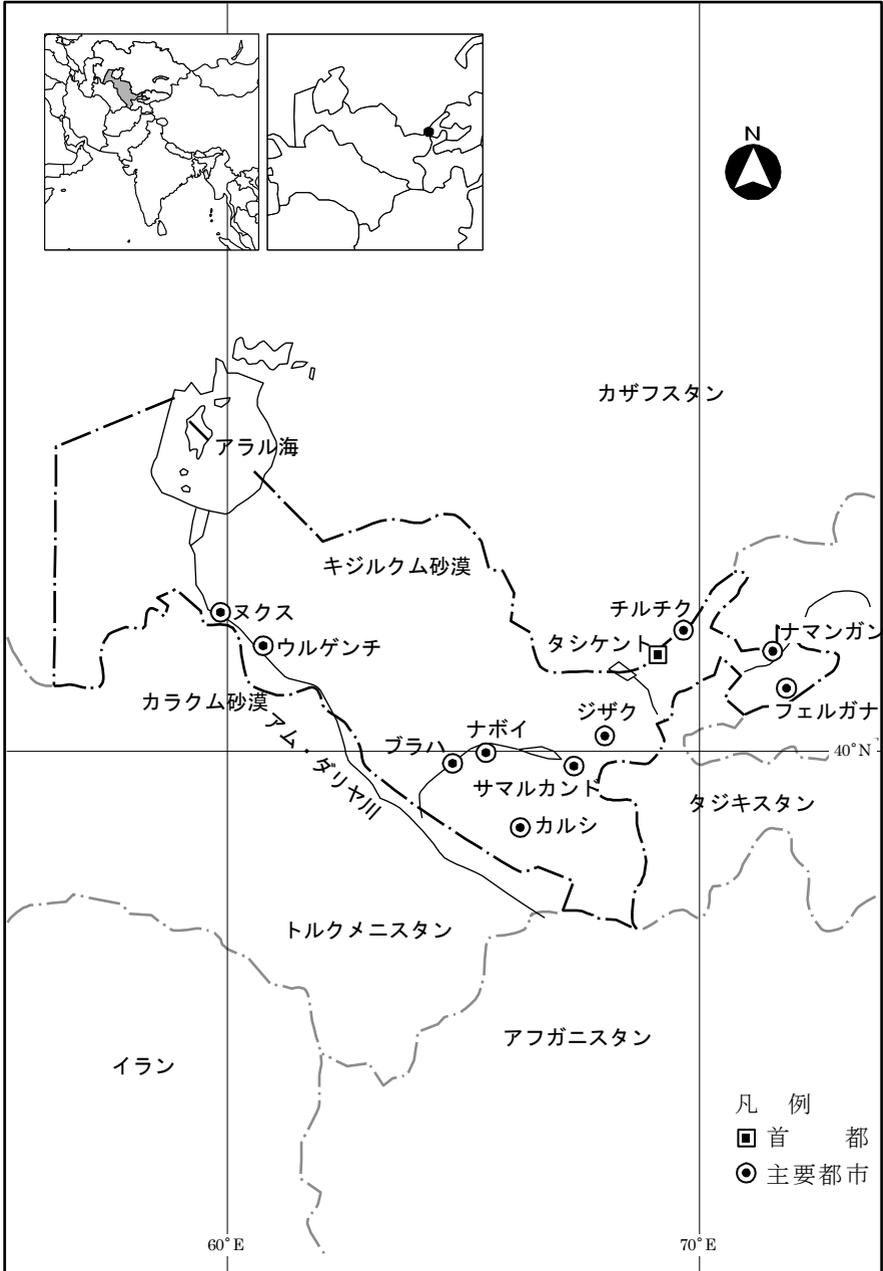


ウズベキスタン共和国



(一般指標)

国名 (英名)	ウズベキスタン共和国 (UZB : Republic of Uzbekistan)		
国土面積 万 ha	4,474 (日本の1.2倍弱)		
人口 万人	2,807.7 人口密度 62.8人/km ² (2012年)		
首都名(英名)	タシケント (Tashkent)		
首都人口 万人	213.8 (2009年)		
主要言語	ウズベク語(公用語) 74.3%、ロシア語、タジク語		
宗教	イスラム教(スンナ派) 76.2%、ロシア正教、ユダヤ教		
国連加盟年月	1992年3月 (1991年8月独立)		
通貨単位	スム 1米ドル=2178.56 (2013年7月)		
国民総所得 : GNI 億米 ^{ドル}	361 (2010年)		
一人当りGNI 米 ^{ドル}	1,280 (2010年)		
主要産業	綿繊維産業、石油、金等		
日本から輸出 億円	190 (2011年) (原動機、重電機器、車輛)		
日本の輸入 億円	39.5 (2011年) (非貨幣用の金98.2%、絹糸、肥料)		
土地利用 万ha	耕地	465	(10.9%) (2009年現在)
	森林	328	(7.7%) (2009年現在)
	牧場・牧草地	2,200	(51.7%) (2009年現在)
度量衡	メートル法		
祝祭日	1月1日元日、3月8日国際婦人デー、20日または21日春分の日ナブルーズ、5月9日戦勝記念日、9月1日独立記念日、10月1日教師の日、12月8日憲法記念日 移動祝日 : ラマダーンの終了日、犠牲祭		
気候	灌漑等の影響で消滅しかけているアラル海がある西・北部は砂漠気候 BW である。東部に行くにしたがって降水量も増え、ステップ気候 BS になり、タジキスタン、キルギス国境付近は地中海性気候 Cs になる。 首都タシケント(年平均気温 14.4℃、年降水量 424mm)。		

(森林指標)

(森林面積)

森林面積 (2010)	千 ha	3,276
森林率	%	8.0
森林変動率 (2005-2010)	%	-0.1

(森林蓄積)

森林蓄積(2010)	百万 m ³	26
ha 当たり森林蓄積	m ³	8

(人工林面積)

人工林面積 (2010)	千 ha	635
森林面積に対する割合	%	19.0

(森林所有者)

公的機関	%	100.0
民間	%	0.0

(炭素蓄積)

炭素蓄積 (2010)	百万トン	19
年平均炭素蓄積変化 (2005-2010)	千トン/年	-

(森林・林業行政組織)

ウズベキスタンにおける森林行政は農業・水資源省の 1 部局である林業局 (Main Department of Forestry) 及びウズベキスタン自然保護委員会が責任を有している。MDF は様々の部局及び組織から構成されている。調査部、研修センター、ガーデニング・林業センター、種苗生産センター、国立公園・狩猟局、ハーブ生産センターなどである。全国には 67 の林業事務所があり、森林保護、森林調査、造林、森林利用の規制などを担当している。加えて 8 の特別林業事務所があり、林野副産物 (主に薬用植物) を扱っている。また、6 つの森林保護区、6 つの狩猟施設、ザマン自然公園、7 つの実験事務所、2 つの特別企業、1 つの林業企業がある。

(森林・林業政策)

ウズベキスタンの森林・林業に関する法制度は次のとおりである。

1992 年	ウズベキスタン憲法
1992 年	自然保護に関する規制
1996 年	自然保護に関する委員会
1997 年	植物相の保護・利用
1998 年	土地規範
1999 年	森林法
2004 年	自然保護地域法

この中で最も重要な法制度は「1999 年森林法」である。同法第 4 条は森林は国有であるとし、国は合理的な保護と利用を図らなければならないとしている。主要内容は次のとおりである。

- (1) すべての森林は国家森林基金の不可欠な要素である。
- (2) 森林基金によりカバーされない森林及び灌木造林地は「植物相の保護・利用に関する法律に基づく
- (3) 森林基金の土地は法的に認められた民間の事業体の利用にできる。
- (4) 森林利用は永久又は一時的なものである。
- (5) 永久の森林利用者は永久利用権契約を森林基金から付与された企業・団体である。

(6) 一時的森林利用は3年以内の短期間と10年以内の長期間である。

2006年に林業局は林業開発計画（2006年—2010年）を承認した。この計画には、再造林・新植、森林の環境保全機能増大、森林面積の拡大などが含まれている。具体的には

- (1) Aral 地域の環境造林
- (2) Bukhara 緑化帯の第2段階植林
- (3) 早成樹及びナッツ類の産業植林

FAO の支援により開発された国家森林政策は国家の持続的開発に貢献する森林の保全と持続的管理を定義している。3つの章から成る

- (1) 開発概念
- (2) 10カ年戦略
- (3) 5カ年戦略

この目的達成のために3つの課題が提起されている。

- (1) 国家森林基金の合理的活用
- (2) 既存の森林の保全・保護・開発
- (3) 新植活動による森林面積の拡大

(森林の現況)

ウズベキスタンの国土面積は44.7百万haで日本の国土の1.2倍である。国土の5分の4は砂漠であり、国の東部及び南東部に多く、Tien Shan と Pamir-Alai 山脈地帯にも分布する。FRA2010によれば、ウズベキスタンの森林面積は328万haであり国土の8%に過ぎない。また、森林面積は2005年から2010年において年間4,000ha、率にして年間0.12%減少している

ウズベキスタンにおいて森林の多い地域としては、南部の山岳地帯が挙げられる。タシケントの南300kmのところにあるジザク州にはアルチャ (*Juniperus spp.*) が自生している。ハンガラン州、ナマンガン州にも比較的森林が残っている。また、アムダリア川やシルダリア川及びゼラフシャン川の川沿いにはトゥガイ林と呼ばれる特

有の河畔林が存在する。砂漠にはサクサウル (*Haloxylon* spp.) が存在するのみである。ウズベキスタンで見られる植物は、68種の樹木、300種の灌木、134種の矮性灌木、2,953種の草木にのぼる。南部山岳地帯においては、ギョリュウ（御柳—地中海地方原産の低木）、ナシ、リンゴ、カキの木、アーモンドの木、サクランボ、つる植物、イチジク、ザクロ等そこだけに生育している国内での稀少樹種がある。また、ウズベキスタンの森林には、いろいろな種類の動物が沢山生息している。その種類は、約430種の鳥類、100種以上の哺乳類、爬虫類、両生類にのぼる。

(人工造林)

ウズベキスタンの造林面積は64万haであり、森林面積に占める人工林面積は19%である。ウズベキスタンにおいて造林の主要目的は土地の保護・緑化 (Reclamation) である。従って、ウズベキスタンは異なる気候区分を有しているため、造林の方法はそれぞれの気候区分で異なっている。砂漠地帯、アラル海の干上がった地帯、Tugai 溪谷そして山岳地帯である。

造林樹種は次のとおりである。

○砂漠地帯

Saxaul (*Holoxylon persicum*, *H. aphyllum*)

Saltwort (*Salsola Richteri*, *S. paletzkiana*)

Kandym (Calligonum)

Tamarisks (*Tamarix*)

これらの林分密度は低く、saxaul の場合、60m³/ha、saltwort の場合 30m³/ha、tamarisks の場合、3-4m³/ha に過ぎない。

○山岳地帯

Juniper, pistachio, almond, nut-tree, apple-tree, hawthorn, 混交林、shrubbery など100種類以上にもなる。

○Tugai 溪谷 (10万ha)

灌木及び草木が平地の河川沿いに見られる。

Asiatic poplar (*Populus diversifolia*, *P. pruinosa*)

Russian olive (*Elaeagnus angustifolia*)

Willow (*Salix songarica*)

Tamarisks

生産性は低く、林分密度 46–64m³/ha である。しかし、一部地域 (Khorezm と Karakalpakstan) では 200m³/ha の生産性を持つ林分も見られる。

植林活動における第一の目的は、斜面崩壊防止や土砂流出防備など森林による公益的機能の向上であるが、果実を収穫して収入とすることも大切な目的の一つとしている。ちなみにウズベキスタンの山地面積の 87%は、土砂崩れの危険があるといわれている。また、溪流での土石流の危険も大きい。

(林産業)

ウズベキスタンでは、産業用に生産される木材はそれほど多くないために、木材産業分野も大規模なものではない。また生産量もウズベキスタンの需要量を賄うには到底足りない状況である。主要な建築材等は、主にロシア連邦から輸入している。木材製品の生産は事業所規模で行われており、ベッド、箆笥などの家具、荷車、建築部材等を生産している。代表的な生産例として、コーカンドの木材企業によって作られた、ガーデンハウス、窓枠、ドア、ベッド「Suri (アルチャの木で作られる子供専用のベッド、アルチャの木が出す独特のアロマが精神安定に良い効能があるといわれている)」がある。また、アンディシヤン森林企業製の柳細工の家具、サトウモロコシの竹ボウキ、バスケット類や柳製品、スキの柄、アシの皿等々は、ウズベキスタンの人々にとても人気がある。その他の非木材林産品としては、カンゾウ等の葉草、コリアンダー、ペパーミント等のハーブ類がある。これらは中央アジアの近隣諸国で高い需要がある。ピスタチオ、アーモンド及びクルミ等のナッツ類の生産は、林業活動の項でも述べたように非常に盛んである。りんごや蜂蜜の生産も同様に盛んである。また、果樹の苗を生産しているがこれも良い価格で販売される。

原木生産量の推移と木材貿易量は以下の表のとおりである。

原木生産量の推移

単位：千 m³

年次	薪炭用	用 材				原木生産量 合計
		製材用、 単板用	パルプ用	その他	合計	
1985	—	—	—	—	—	—
1990	—	—	—	—	—	—
1995	—	—	—	—	—	—
2000	19	—	6	0	6	25
2006	22	—	—	9	9	31
2010	22	—	—	8	8	30

注：その他は杭、マッチ、ポスト、柵 など

木材貿易量（2010）

単位：数量万 m³、金額万ドル

製 品 名	輸 入		輸 出	
	数 量	金 額	数 量	金 額
丸 太	27.4	1,961.0	0.4	—
製 材	168.9	21,506.7	—	—
合 板	2.8	1,435.0	0.0	—

出典：1. Botman. E, 2010, Forest Rehabilitation in the Republic of Uzbekstan

(www.iufro.org/download/file/7408/5123/Uzbekistan_pdf/)

2. Mongabay, 2013, TROPICAL RAINFORESTS: Uzbekistan

Forest Information and Data

(<http://rainforests.mongabay.com/deforestation/2000/Uzbekistan.htm>)